派遣報告書

千葉大学　産婦人科
大塚　聡代

このたび、カンボジアのプノンペンで行われた、第 24 回 Symposium of Cambodian Gynecology and Obstetrics (SCGO) に派遣していただきましたので、下記のとおりご報告申し上げます。

第 24 回 SCGO はプノンペンの Phnom Penh Hotel で 2025 年 11 月 22 日、23 日の 2 日間開催され、参加者は約 300 名でした。カンボジアは学会からの指名演者がシンポジウム形式で講演する方式が主流だそうで、1 つの大ホールで終日プログラムが組まれていました。産婦人科領域に乳腺疾患が含まれるようで乳癌に関する演題の他、デング熱合併妊娠の症例報告、妊娠に対するアスピリンの有用性など幅広いテーマの講演が行われていました。私は“Management of ovarian cancer”の演題名で、Sann Chansoeung 教授、Rathavy 教授、Sokneth 准教授の座長のもと、20 分間の口演発表を行いました。当科では、2008 年に卵巣癌治療チーム“team ovary”を結成し、婦人科腫瘍医により横隔膜切除・脾臓摘出などの上腹部手術や腸管切除・吻合を施行してきました。チームリーダーの楯真一先生が報告された論文の内容をもとに、発表を行いました。当科での初期卵巣癌の癒着例に対する治療戦略と進行卵巣癌に対する集学的腫瘍減量術の取り組みについて、手術動画を交えながら紹介しました。同世代の医師から、カンボジア国内には病理医が 10-15 名しかいないため迅速組織診ができない場合の手術について、未熟奇形腫 Grade3 の早期再発例、拡大手術の導入プロセスなど多岐にわたるご質問をいただきました。これから発展していく医療環境下で治療を模索されているパッションを感じました。

発表後には、カンボジアの学会幹部の先生方にナイトマーケットへご案内いただき、プノンペンの活気のある街並みを拝見しながら人力自転車に乗せていただきました。また、私自身が 2020 年から 2022 年に日本産科婦人科学会未来委員会の若手委員を務めていた際に同期であった森田恵子先生が、プノンペンの日系病院である Sunrise Japan Hospital に勤務されており、学会中、私の英語力を補いカンボジアの先生方との交流を図ってくださりました。最終日には、森田先生が Sunrise Japan Hospital を、JICA で勤務されている春山怜先生がカンボジア保健省をご案内くださりました。

渡航前のイメージと大きく異なり、この 10 年でプノンペンは急速な経済発展を遂げており、高層マンションや洗練されたカフェ、丸亀製麺やスターバックスなどの外資企業が進出していました。プノンペンの想像をはるかに超える発展ぶりに大変驚きました。

私は海外の学会で発表した経験はなく、非常に貴重な経験をさせていただきました。一方で、自身の英語力不足を痛感したため、臨床業務と併せて研鑽を継いでまいります。

最後に、今回の派遣に際し、ご指導・ご支援を賜りました、日本産科婦人科学会の皆様に心よりお礼を申し上げます。

現地でプレゼン中の大塚聡代先生

森田恵子先生（写真 左）とナイトマーケットにて